お仕事調べ隊 もっと聞きたい

マイナビ仙台の2選手に聞く

石坂選手 気持ちを大切に頑張る
遠藤選手 楽しむこと忘れないで

プロの女子サッカー選手になるには、どうしたらいいんだろう？　マイナビ仙台の石坂咲樹選手（22）＝仙台市泉区出身＝と遠藤ゆめ選手（20）＝宮城県多賀城市出身＝に聞いたよ。

（1面に関連記事）

石坂選手は兄の影響で小学3年生のときにサッカーを始めました。リフティングにのめり込み、4、5年生のときには1000回を超えました。

「家の中でもずっとボールを蹴っていて、ガシャーンって時計を壊したこともありました」

性格は泣き虫。「学校に行きたくない」「ご飯食べるのがつらいから合宿に行きたくない」とぐずっていたそうです。小学生の頃はテニスとピアノも習っていました。

中高はマイナビ仙台の下部組織で育ち、武蔵丘短大（埼玉県）を経て2024年にマイナビ仙台に加入。昨季はベンチ入りのメンバーから外れる苦しい時期もありましたが、走りやフィジカル強化に力を入れました。

サッカー選手を目指す子どもには「思うようなプレーができず『もう無理』と思う瞬間は誰にでもあります。でも自分がどうしたいか、どうなりたいかという気持ちを大切に頑張ってほしい」とエールを送ります。

◇　◆　◇

「悪ガキ」「わがままま」「1番じゃなきゃ気が済まない」。遠藤選手は活発だった子ども時代を振り返り、苦笑いを浮かべます。

幼稚園の先生の勧めで小学1年生のときにサッカーを始めました。地元のスポーツ少年団やサッカースクールに通い、週7日、サッカー漬けの日々を送りました。

実は、サッカーを始めた頃は左利きでした。鉛筆を右手で持つようにしたとき「ドリブルも右でやろう」と利き足を変更。今は両足を使えるのが、大きな武器になっています。

中学生でマイナビ仙台の下部組織に入団。高校1年生のとき、国内初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」が開幕し、プロサッカー選手という夢がより現実的な目標に変わりました。

子どもたちには「サッカーを楽しむことを忘れずに、今の自分に何が必要かを考え、考えるだけでなく行動に移してほしいです」と話します。

居残り練習を終え、笑顔を見せる遠藤選手（左）と石坂選手＝1月15日、仙台市泉区の練習場

河北新報社 × 朝日新聞社 × 朝日学生新聞社　教育セミナー

親子で育てる「考える力」
おうちでできる！学びの環境づくり

参加費 無料

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

日時　2/15(日)　1回目 10:30〜12:30　2回目 14:00〜16:00（各回定員70名）

場所　河北新報社 本館ホール
仙台市青葉区五橋1-2-28
※お車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

お申し込み　右の二次元コードよりお申し込みください。

締め切り　2月5日(木)

対象　小学生の保護者様
お子さま同伴も大歓迎です！

新聞を活用した
読解力・文章力アップ法や、
情報を正しく読み解く「メディアリテラシー」など、
ご家庭でできる工夫を、わかりやすくご紹介します。

【講師紹介】高橋　宏輔　朝日小学生新聞・朝日中高生新聞教育チーム
大手中学受験塾講師を経て、2008年朝日学生新聞社へ入社。「新聞と教育」をテーマに全国の小学校・中学校・高校・大学で出前授業や講演を行う。学校の先生への研究指導や講演も多数。教育学修士。近著「子育てリスキリング奮闘記〜休職サラリーマン、二児を抱えて教育系大学院で学ぶ」（ナカニシヤ出版）

【問い合わせ】河北新報社販売部 022-211-1302(平日9時〜17時)

【個人情報の取り扱いについて】お客様にご登録いただいた個人情報は、本セミナーの運営(連絡・確認・資料送付等)に使用いたします。また、河北新報・朝日新聞の各グループ(河北新報社、朝日新聞社、両社のグループ企業および各販売所・ASA)において、商品・サービスに関するご連絡やご案内などに利用させていただく場合がございます。個人情報は、各社の個人情報保護方針に基づき、安全かつ適切に管理いたします。詳しくは、各社のプライバシーポリシーをご確認ください。河北新報社(https://www.kahoku.co.jp/privacypolicy.html/)、朝日新聞社(https://www.asahi.com/corporate/privacypolicy/)